



滋賀陸協広報

一般財団法人 滋賀陸上競技協会

〒520-0037 大津市御陵町4-1 皇子山陸上競技場内2-1室

TEL/fax077-527-3925 <http://srkshiga.com>

「滋賀陸協リスタート2026」

一般財団法人滋賀陸上競技協会
会長 野村昌弘

春はすぐ近くに来ています。会員の皆様におかれましては、ますますご清祥のこととお慶び申し上げます。

いよいよ新年度が目前に迫ってきました。昨年開催されました「わた SHIGA 輝く国スポ陸上競技会」は平和堂 HATO スタジアムにおいて、全国のアスリートが力を出し切り成功裡に終了することができました。会員のみなさまのご支援ご協力の賜と感謝申し上げます。

さて、滋賀陸上競技協会では、国スポ滋賀で盛り上がった力をレガシーとして継続し、競技力の維持に努めるとともに、普及活動においても少年期の陸上競技活動の発展に努めていきたいと考えております。特に公認審判員の資格向上事業およびスポーツ指導者養成事業に力を入れ、ブロンズレフェリー資格等の取得やスタートコーチ等資格を取得した指導者の増加を図っていきます。そのためにも、理事会、評議員会で新年度予算を承認していただくことを願っております。

また、滋賀国スポの成功を目に見えるカタチとして継承するシンボル大会を開催します。「グランプリチャレンジ滋賀」と題し、継続的に県民スポーツの振興につながる取組みになるよう進めていきたいと考えています。

ところで、平和堂 HATO スタジアムでは、今年の夏に「全国高校総体陸上競技会（インターハイ）」が、来年夏には「全国中学総体陸上競技会」が開催される予定ですが、日本陸連は競技者の安全と健康を守るために暑熱対策を強化しています。WBGTに基づく判断基準もその一つです。競技者ファーストの視点は変えず開催の方向で見ていくつもりであります。

最後に、会員のみなさまには、2026 年度ご活躍されることをご祈念申し上げ 2026 年度シーズンを迎えるにあたってのご挨拶といたします。

◎湯上剛輝 選手

デフリンピック金メダル(デフリンピック記録)&第9回日本パラスポーツ大賞

おめでとうございます！！

日本記録保持者として臨んだ地元国スポでの優勝後、休む暇もなく、11月には自国開催のデフリンピックに優勝候補の筆頭として出場されました。みんなの期待が高まる中、見事にデフリンピック記録で金メダルを獲得されました。そして、今シーズンを通しての活躍が評価され、読売新聞社制定の、第9回日本パラスポーツ大賞を受賞されました。聴覚障害を持つアスリートとして初の大賞受賞です。今シーズン、たくさんの感動をいただきました！！

来シーズンでの活躍も非常に楽しみです！



湯上選手のコメント

2025年のシーズンは私にとって1つの集大成とも言える素晴らしいシーズンになりました。4月にはアメリカでの競技会（Oklahoma Throw Series）にて約7年ぶりの自己新記録、そしてそのまま日本新記録更新。5月に韓国で行われたアジア陸上競技選手権では日本勢34年ぶりとなる銀メダル獲得。6月の日本選手権ではうまくいかず3位に終わってしまいましたが、そこから奮起して7月と8月に渡米したことが、9月の世界陸上出場につながりました。10月には地元滋賀県開催の国スポに、滋賀県チームとして10年以上ぶりに参加し、優勝しました。11月には聴覚障害者の最大の祭典であるデフリンピックにも出場し、金メダルを獲得しました。



目標としていた3大会（世界陸上、国スポ、デフリンピック）が全て地元開催であるというのは、この2025年は自分のために準備されていたのではないかとさえ思いました。地元開催ならではのプレッシャーはもちろんありましたが、様々な形で暖かく応援してくださったのは大きな力になりました。この場を借りて感謝申し上げます。本当にありがとうございました。

【強化委員会】

■天津2026アジア室内陸上競技選手権大会（第12回アジア室内陸上競技選手権大会）

2026年2月6日（金）～8日（日）中国・天津

瀬古優斗選手と落合晃選手の2名が出場しました。瀬古選手は優勝、落合選手は銀メダルを獲得し、2026シーズンも大いに期待が持てる結果でシーズンインしました。今年は名古屋でアジア競技大会が開催されます。アジア大会でも活躍が期待されます。

瀬古選手コメント

初めて代表になれた大会がこのアジア室内選手権でその時は4位、前回は2位、今回は1位と少しずつではあるものの進歩を感じている。シーズン1発目の試合なので、記録はこれから上げていきたい。昨年を引き続き、今年も良いシーズンとしたい。

■第44回全国都道府県対抗女子駅伝競走大会 2026年1月11日(日) たけびしスタジアム

結果：14位 2時間21分15秒

監督就任以来、各カテゴリーがかみ合わず苦しい時期もあったが、近年は実業団選手の充実やセンコーの守山拠点化により社会人層が安定してきた。一方で課題であった高校生も、今年は1年生を中心に競技力が大きく向上し、第28回大会時を上回る戦力で臨むことができた。

レースでは1区・北川星瑠選手(ユニバーサル)が想像を超える走りでトップに立つ場面をつくり、チームに大きな勢いをもたらした。2区丹羽琴音選手(センコー)、4区不破亜莉珠選手(センコー)ら社会人が流れをつなぎ、3区では中学生の佐々木未羽選手(栗津中)が3人抜きで6位に浮上し、高校生区間も厳しい状況の中で粘りを見せ、チーム一丸となって戦う姿を示すことができた。

来年は佐々木選手が高校カテゴリーに加わり、坂本美來選手(滋賀学園高)、藤田琉里選手(比叡山高)を軸に勝負ができる。社会人も確実な見通しが立てられる状況ができたことを考えると、今回を上回る勝負ができる。各カテゴリーの連携をとりながら、粘り強く入賞を目指して取り組んでいく。

〈女子駅伝監督 吉居克広先生 報告書より抜粋〉



■第31回全国都道府県対抗男子駅伝競走大会 2026年1月18日(日) 平和記念公園

結果：31位 2時間22分02秒



今年度のメンバー編成は沖縄全中出場の本庄瑛太選手(竜王中)、広島IH1500m7位入賞の伊勢村鈴太選手(滋賀学園高)、日本選手権3000mSC6位入賞の谷口辰熙選手(NTN)など各世代の核となる選手を中心に選考することができた。

年末年始に中高生を中心に練習会・合宿を行い、高校生はお互い刺激し、中学生は補員にまわり開会式では旗手を務めた田中郁人選手(葉山中)、本庄、勝瀬琉生選手(彦根東中)の3人が切磋琢磨しながら良い練習を積み個々のレベルアップにもつながった。

しかし、現地入りしてから1区を予定していた伊勢村選手が故障の影響で出走ができなくなり、田島主税選手(滋賀学園高)に変更、谷口選手がコンディション不良で安原太陽選手(Kao)を3区に起用するオーダーとなった。

レースでは1区の田島選手には集団が見える位置で襷を渡すよう指示、その通り区間45位だったが前の集団とは10秒弱で流れを作ることができた。2区本庄選手は1人抜き、3区は各チームのエースが集う中苦戦したが、4区鈴木佑岳選手(滋賀学園高)が5人、5区河合芳倅選手(水口東高)が3人抜き順位を上げることができた。6区勝瀬選手も順位を維持し7区安原海晴選手(駒澤大)が6人抜き31位でのゴールとなった。今回もアクシデントがありながら主将・谷口選手を中心にチームが一体となり駅伝としては理想的な展開を作ることができた。監督就任当初から「中学で全国の舞台を経験し・高校で揉まれ育ち・大学、実業団で飛躍して故郷のユニフォームを着る」といった育成を目標に取り組んできた。今回はその基盤となる形になったのではないかと考える。現在、「滋賀」で中高時に都道府県駅伝を経験した選手たちが大学や実

業団で活躍しだしている。こういった選手に憧れ、目標とする中高生が育つことで近い将来入賞が近づいてくるものとする。あと数年、育成に注力しながら大輪の花が咲く日を待ちたい。

〈男子駅伝監督 大川亨先生 報告書より抜粋〉

■冬季強化事業「選抜・育成練習会」

今年も中学・高校・大学・一般の選抜選手が一堂に会する合同練習会を開催しました。今年は開始が1か月遅れ、1月から3月までの全3回実施となります。年々参加者は増え、特に中学生の参加者が大幅に増えていることはこの強化事業が確実に根付き、次世代へと広がっている証だと感じています。

2025年の滋賀国スポを終えたばかりですが、2026年にはインターハイ、2027年には全中が滋賀で開催されます。地元開催という大きな舞台に向け、そして2026青森国スポの代表の座を勝ち取るために、選手たちの挑戦はすでに始まっており、「全国で戦う」という強い覚悟と熱気が満ちあふれた練習会となりました。

練習会などで、参加者対象に国スポの写真や映像をまとめたムービーを上映するたびに、「次は自分があの舞台に立つ」というまなごしの強さを感じます。滋賀には日本代表や日本トップクラスの選手が数多くおり、その背中を追い、憧れを力に変え、世代を超えて切磋琢磨できる環境があります。2026青森国スポ、そしてその先の全国の舞台へ向けて、滋賀一丸となってさらなる強化を進めていきます。

【普及委員会】

■日清食品カップ第41回小学生陸上競技交流大会 2025年11月2日(日) 日産スタジアム



他の選手もB・C決勝への進出や自己ベスト記録を出すなど、全国の舞台で力を発揮してくれました。応援ありがとうございました。

5年女子100mでは饗場萌生選手(草津JAC)が13秒64(-0.2)で2位に、また女子コンバインドBでは大野萌々選手(SPK IMURA走塾)がジャベリックボール投げで52m27、走幅跳で4m22をマークし7位入賞を果たしました。



今年度も多くの皆さまにご協力いただき、小学生の陸上競技会を開催することができました。ありがとうございました。来年度も何卒よろしくお願い申し上げます。

【マスターズ】

2025年9月7日に行われたスポレク祭は、エントリー203名と盛大に開催されました。女子マイルリレーにおいて、昨年樹立した日本記録をさらに更新する記録が生まれました。

また、全国大会は福岡で39名が参加しました。悪天候で中止の種目もある中で、頑張りました。



女子マイルレーで日本新記録を樹立したメンバー
(左から、種子田選手・海部選手・中江選手・鮫澤選手)



2025 世界陸上マスターズレース出場者

【中体連】

■第74回近畿中学校総合体育大会駅伝の部 2025年11月30日(日) 滋賀県希望が丘文化公園内コース
男女各5チームが出場し、男子は彦根市立東中学校の9位、女子は高島市立今津中学校の17位が滋賀県勢最上位となりました。

■第33回全国中学校駅伝大会 2025年12月14日(日) 滋賀県希望が丘文化公園

本県開催10年目となる全国中学校駅伝大会が開催されました。男子の部では、群馬県代表の前橋市立木瀬中学校が初優勝。女子の部では、岡山県代表の岡山市立京山中学校が優勝し、見事3連覇となりました。滋賀県勢は、県代表として出場した竜王町立竜王中学校男子チームが34位、高島市立今津中学校女子チームが34位、開催地代表として出場した甲賀市立水口中学校男子チームが23位、大津市立粟津中学校女子チームが42位という結果でした。

■近畿ブロック研修合宿 2026年1月10日(土)～12日(月) 和歌山県紀三井寺陸上競技場

選手にとっては他府県アスリートとの交流を深め、有意義な時間となりました。また、指導者においても指導方法等の交流を行い、多くのことを学ぶ機会となりました。

2027年は滋賀県で全日本中学校陸上競技選手権大会が行われます。2年後、一人でも多くの選手が優勝・入賞するよう中体連一丸となって盛り上げていきます。

【高体連】

■U18陸上競技大会 2025年10月17日(金)～19日(日) 三重交通Gスポーツの杜伊勢陸上競技場

男子300mでは、島田絢都選手(比叡山)が34.16秒の記録で第7位、女子300mHでは、浅井萬葉子選手(比叡山)が44.52秒の記録で第7位となりました。また、女子1500mでは、坂本未来選手(滋賀学園)が4分30秒04の記録で見事優勝を果たしました。

■滋賀県高等学校駅伝競走大会 2025年11月2日(日)

希望が丘文化公園の特設コース



男子優勝校:滋賀学園高校

男子の部では滋賀学園高校が3年ぶりの優勝で都大路への切符を獲得しました。第2位が草津東高校、第3位が大津商業高校という結果でした。

全国高校駅伝は、50位 2時間9分44秒という結果でした。

女子の部では比叡山高校が13連覇を達成するなど、盤石の強さを見せ、第2位が草津東高校、第3位が大津商業高校という結果でした。

全国高校駅伝は、35位 1時間11分41秒という結果でした。



女子優勝校:比叡山高校

■冬季選抜強化合宿 2025年12月26日(金)~28日(日) 希望が丘陸上競技場

■高体連練習会 2026年1月~3月 希望が丘陸上競技場

高体連主催で陸上競技の普及・強化に向け精力的に活動しています。1人でも多くの選手が、今年、地元滋賀で開催される全国IHに出場し活躍することを目指し、今後も全力で取り組んでまいります。今後とも、高体連の活動へのご理解とご支援をよろしくお願いいたします。

【編集後記】

熱かった2025シーズンの勢いそのままに、選手たちは冬季練習を越え、いよいよ2026シーズンの開幕です。

国スポの舞台となった平和堂HATOスタジアムでは、今年インターハイ、来年は全国中学大会が開催されます。引き続き、皆さまの応援よろしくお願いいたします。